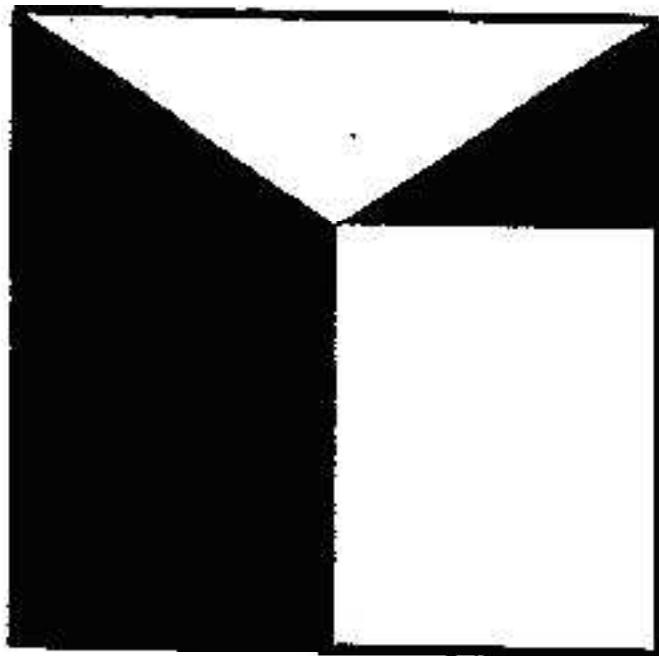


第 2 回 第 3 学 年 進 路 説 明 会

2 0 0 7 年 度



平 成 1 9 年 1 0 月 2 5 日 (木)

横 浜 市 立 洋 光 台 第 二 中 学 校

第 2 回 進 路 説 明 会 資 料

2 0 0 7 . 1 0 .

2 5 .

横 浜 市 立 洋 光 台 第 二 中 学 校

1 進路決定までの流れ

- 10月25日(木) 進路説明会 進路決定までの流れ、今年の入試制度について、進路先の決定の仕方(出願・入試・発表・手続き)、進路決定にあたっての心構えについてお話しします。このときに第二回進路希望調査 中学校生活の記録(調査書記載用) 学区確認申請調査を配布します。10月31日(水)〆切です。中学校生活の記録について12月までに追加があれば担任の先生に申し出てください。
- 11月8日(木)~9日(金) 国・社・数・理・英の5教科の実力テストです。自分の入試に対する学習状況調査 力試しになります。現在の時点でどのくらい力があるかが判断できます。試験に強いかどうかの目安として活用します。
- 11月14日(水)~16日(金) 前期の成績と第二回の希望調査をもとにして、この面談で進路の方向性を決定します。そのためには、ここまでに高校説明会や文化祭などにでかけ、前期の成績よりも上がった場合、現状維持の場合、前期の成績より下がった場合を想定して志望校の相談ができるようにしましょう。特に、公立の前期選抜や私立の推薦・併願については具体的な話ができるように心がけてください。この面談後に最後の希望調査をとります。<希望調査〆切 11月28日(水)〆切> 学習教育相談 (三者面談)
- 11月20日(火)~22日(木) 進路の成績を決める最後のテストです。計画的な学習をしましょう。後期中間テスト
- 12月3日(月) 受験写真 身だしなみを整えてください。眉が極端に細いとか、化粧しているとかそんな人はいませんね。一番いい顔で撮りましょう。男子で最近 Y シャツの下に色 T シャツを着ている人、女子で髪の毛にリンをつけている人も×です。 (予定)
- 12月7日(金)~11日(火) 進路の成績が出ます。11月の三者面談で話がまとまっていない人、成績の変動によって進路先を変更しなければならない人が中心に面談を行います。あとは最終確認のための面談です。この面接で進路先を最終決定します。 学習教育相談
- 12月11日(水)~21日(金) 公立前期を受ける人は自己PR書の作成をします。出願までに変更の可能性がある場合はその分まで書いておくといいでしょう。書けた段階で担任の先生に見せ、清書まで完成できるようにしましょう。自己PRをもとに、1月に二中の先生と模擬面接(私立推薦の人は校長面接)を行います。ポイントは2点。自分の特徴・長所(資格な加点ポイントになる個人の3年間の記録は除く) 志望理由・入学後やりたいことをしっかり書きましょう。 (調査書に記載される内容は書かないこと)
- 12月11日(水)~21日(金) 願書については公立用は学校から配布しますが、私立用は各高校に行かないと手に入りません。説明会の時などにもらっておくと早く願書下書き・清書 下書きの準備ができます。志望校がきまりしだい担任の先生と相談し、冬休み前に下書き・清書を完成させましょう。(他に、出願に必要な書類や事前の振込が必要なもの、受験写真のチェックもしておきましょう) (私立推薦・公立前期)

冬休みは先生方は調査書を仕上げます。君たちは公立前期や私立推薦のための面接の準備を自己PRをもとに完璧にしておきましょう。そして、最後の力を振り絞って勉強に集中し、自信をつけましょう。

12月10日(月)～1月10日(木) 進路説明会のときに配布した学区確認の申請がなされていないと、
学区確認申請 出願の際にトラブルを起こすこととなりますので注意しましょう。

具体的な申請が必要な場合は担任から話があります。

1月7日(月)～1月11日(金) **私立推薦・公立前期願書清書提出(担任に。関係書類も)**
公立自己PR書清書提出(担任に。コピーを本人と担任用2枚)

1月8日(火)～1月11日(金) 私立推薦者校長面接<～1月17日(木) 公立前期模擬面接>

1月9日(水)～1月11日(金) 調査書「個人の記録」の部分を家庭で確認

1月15日(火) 私立推薦出願の諸注意 1月16日(水) 私立推薦出願(17、18日もあり)

1月17日(木) 公立前期出願の諸注意 1月18日(金) 公立前期出願

出願は学校としてします。 私立は願書以外に調査書・推薦書・受検料(事前に払い込みの学校もある)などを持参させたり、公立は願書(銀行への受検料払い込み証明書を添付)以外に自己PR書などを持参させたりします。勝手に出願しないように。出願後は必ず学校に受検番号を報告 に来るように。定時制及び通信制も前期は同じ出願・入試になります。

1月21日(月)～1月31日(木) 私立一般・オープン、公立後期願書下書き・清書提出

1月21日(月) 私立推薦入試・発表・手続きの諸注意 1月22日(火) 私立推薦入試
1月23日(水) 私立推薦発表

1月25日(金) 公立前期入試の諸注意 1月28日(月) or 29日(火) 公立前期入試

試験や面接の内容について簡単な質問用紙を渡しますので答えてください。

1月31日(木)～2月1日(木) 中学校最後のテストであり、公立後期試験の力を試すものです。
後期期末テスト 私立推薦はクラス分けや特進・奨学生を決める試験の力を試すものになります。真剣に取り組みましょう。

2月1日(金) 公立前期発表・手続きの諸注意 2月4日(月) 公立前期発表
私立一般・オープン・公立後期 2月4日(月)～2月6日(水)
出願の諸注意 私立一般出願予定
(オープン出願などは随時)

発表後は合否にかかわらず学校へ報告に来ること。無断で入試を欠席したり、合格手続きをしないことがないように。私立推薦や公立前期に合格した人は私立一般や公立後期の受験はできません。 公立前期に不合格の場合は私立推薦の受検者はすぐに私立高校に入学手続きをしましょう。(入学手続きは基本的には保護者が行います。)それ以外の人は私立一般と公立後期の出願手続きをしないといけません。私立一般は願書以外に調査書、公立後期は願書(銀行への受検料払い込み証明書を添付)を持参します。なお、後期に自己PR書が必要な高校は釜利谷高校体育コース、定時制、通信制は必要な学校がありますので注意してください。

・面接は願書とともに提出した1枚の自己PR書を参考にしながら実施します。学校によっては調査書、面接以外に、作文（昨年度は光陵、金井、永谷など）や実技検査（上矢部陶芸コースなど）、自己表現活動（例、スピーチや寸劇 神奈川総合高校など）を実施します。

例年希望の多い学校の総合的選考の特徴は次の通りです。

柏陽高校 計算式から見る限り、学習の記録が7割を占めている。しかも、国語・数学英語を重視していることがわかる。そして、作文が2割も占めている。作文の内容は9月下旬にホームページに明らかにされる予定だが、作文が合否に占める割合は高い。自分が高校に入って何をしたいか、将来にどうつなげていくかがはっきりしていることが重要。

横浜南陵高校 計算式から見る限り、学習の記録が約7割を占めている。調査書の記載事項のポイントがどのくらいあるかが重要になってくる。面接は自己PR書に書いたことをどれだけ自分の気持ちを込めて話すかが重要。

氷取沢高校 計算式を見る限り、2、3年の学習の記録が約8割を占めており、内申点を重視していることがわかる。いかに中学校の授業を大切にしなければならぬか。そのうえで、残りの2割を見ていく。内申はよくてあたりまえというくらいの気持ちで、残りの2割をどれだけプラスできるか。面接は自己PR書に書いたことをどれだけ自分の気持ちを込めて話すかが重要。

港南台・上郷高校 計算式を見る限り、2、3年の学習の記録が約7割を占めている。面接が20点と割合が大きいが特徴。新校や単位制などに対する理解を深めると同時に、自己PR書に書いたことをどれだけ自分の気持ちを込めて話すかが重要。特に、「今回はなぜ上郷なのか」とか。

横浜立野高校 計算式を見ると、2・3年の学習の記録6割、調査書の記載事項3割、面接1割である。特に、調査書の記載事項の割合が他校よりも高いことが特徴である。面接は自己PR書に書いたことをどれだけ自分の気持ちを込めて話すかが重要。

横浜緑ヶ丘高校 計算式から読み取りにくいですが、受検者を考えた場合、学習の記録では国・社・数・理・英の力が要求される。面接が大きなポイントを占めている。自己PR書から自分の気持ちをどれだけ込めて話せるか。

磯子高校 計算式から見ると、他校と比べ調査書の記載と面接に約1/3のウェイトをおいていることがわかる。面接の自己PR1分間のためにも、自己PR書から自分の気持ちをどれだけ込めて話せるかが大切になる。国際ビジネスは国・社・英の学習の記録のポイントが高い。

釜利谷高校 計算式を見る限り、3年生の成績の比重が高いことがわかる。体育コースは体育の成績及び体育的な活動が重視されていることがわかる。面接は自己PR書から自分の気持ちをどれだけ込めて話せるかが大切になる。

磯子工業高校 計算式を見ると、面接のかなりウェイトが大きいがわかる。面接は自己PR書から自分の気持ちをどれだけ込めて話せるかが鍵になる。理科と技術家庭の関心・意欲・態度の成績が重視されることがわかる。

永谷高校 計算式を見ると、約7割は学習の記録を重視する。面接の割合が他校と比べて高いので、自己PR書から自分の気持ちをどれだけ込めて話せるかが大切になる。

市立金沢高校 計算式で見ると、約1/3がT点とM点である。特に、T点の割合が2割と高い。面接は自己PR書から自分の気持ちをどれだけ込めて話せるかが大切である。

市立南高校 他校の選考基準と全く違うことが特徴。調査書の記載事項のウェイトに大きな比重がかかっている。学習の記録も3年の国・社・数・理・英に重点が置かれていることがポイント。面接は自己PR書から自分の気持ちをどれだけ込めて話せるかが大切である。

清陵総合高校 総合高校としての特徴を理解できているかが大切である。面接のウェイトが高いので、自己PR書から自分の気持ちをどれだけ込めて話せるかが大切である。

国際情報高校 計算式を見る限り、英語の力がどのくらいあるかを問うだけでなく、国際社会で活躍する人として将来をどのように考えているかが問われる。実技検査や作文に磨きをかけて、面接では自己PR書から自分の気持ちをどれだけ込めて話せるかが大切である。

横浜商業高校 商業科と国際学科で選抜の方法が全く違う。商業科は選考基準が他校と違い、A値における自分の位置がはっきりしないことから選考の目安が難しい。国際学科は英語や国際交流に重点を置いていることがわかる。面接は自己PR書から自分の気持ちをどれだけ込めて話せるかが大切である。

金沢総合高校 総合高校としての特徴を理解できているかが大切である。面接のウェイトが50%と高いので、自己PR書から自分の気持ちをどれだけ込めて話せるかが大切である。

< 公立後期の選考基準 >

前期選抜に不合格だった場合や前期を受けなかった人は受験資格があります。前期不合格者は願書、調査書、受験料をもう一度提出するということです。募集案内のP、18～P、23をみると、学力検査と調査書(学校によっては面接、実技検査、自己PR書が必要)をもとに選考します。「学力検査」があることが最大のポイントです。受験者は基本的にA値(135点満点)は同じくらいの人です。学校ごとの入試平均得点を参考に、自分がどのくらい力を出し切れるか。倍率は年によっても変わります。絶対性はないので。

学校ごとに選考の基準が違います。

- ・ 学力検査の科目が違う。独自試験を実施する学校がある。学力検査に重点化の科目がある。
- ・ 調査書に重点化の科目がある。調査書と学力検査の比率が学校によって違う。
- ・ 学校ごとの総合的選考の項目が違う。(ホームページアドレスにアクセスすること)
- ・ 全日制普通科とそれ以外の高校(単位制普通科、普通科専門コース、専門学科、総合高校、定時制)では選考の仕方が違う。また通信制は面接及び総合的選考です。
- ・ 第一次選考と第二次選考がある学校は、第一次選考は後期募集定員の80%、第二次選考は残りの20%と分けて合格を決める。

志願変更が1度だけできます。ただし、神奈川県から横浜市、横浜市から神奈川県は少々手続きが煩雑です。

後期は全日制、定時制、通信制それぞれ日程が違います。ただし、横浜市立横浜総合高等学校と神奈川県立平塚農業初声分校は全日制後期と試験日が同じになりますので注意してください。

後期選抜では専門学科を志願する場合、同一校の別の学科を記載することができます。

例、第一希望 神奈川県立磯子工業高校機械科 第二希望 神奈川県立磯子工業高校電気科
後期は前期選抜が残念だった人、前期選抜を受けなかった人

< 私立高校の入試選抜制度と最新情報 > (東京都の場合は選考方法が違います)

- ア、推薦 ... その学校が第一志望で他校は一切受験できません。選考は調査書と面接のみです。その学校の入学の条件に合わない場合は受験できません。
- イ、推薦 ... 公立の前期選抜のみ受験が可という方法です。公立前期を不合格になった場合は、その学校に入学する約束になりますので、公立の後期選抜その他の受験はできません。
推薦と同じで、選考は調査書と面接のみです。その学校の入学条件に合わない場合は受験できません。
- ウ、専願 ... その学校が第一希望で、専願の条件を満たして、推薦では厳しいがと言う条件で受験するケースが多いです。選考は調査書と筆記試験と面接が中心です。他校の受験はできません。
- エ、併願 ... 主に公立高校の後期選抜を第一希望に考えて受験することを言います。最近オープン入試を第一に、公立・私立との併願のケースが増えています。併願の条件を満たしていることが前提で、選考は調査書と筆記試験と面接が中心です。公立高校や私立高校の合格発表まで入学金を待ってくれる学校とそうでない学校があるので確認しましょう。(入学金を待ってくれる学校で「延納手続き」が必要な学校もあります)
私立との併願ができない学校があるので注意しましょう。また、合格後に私立併願を第一希望にする場合は公立高校の受験辞退届が必要です。
- オ、オープン ... 当日の入試のみで合否が決まります。実力勝負ですので併願校にはなりません、公立後期選抜の発表まで入学金を待ってくれる学校が多いです。入試日に注意すること、受験する場合は担任の先生に連絡すること。オープンの学校が第一希望の場合は確実に合格できる学校との併願が必要なことと合格した場合は公立後期や私立併願の受験辞退届が必要です。

9教科または5教科(国社数理英)に「1」があると受験を断られる学校が多い。(2年の成績でも。なかには「2」があっても断られる学校もある)

欠席日数が年間10日を超えると受験を断られる学校が多い。(なかには各学年または3年間で10日という学校や遅刻2回で欠席1回扱いという学校もある)

相手校が出す成績の条件提示で不足の場合は受験を断られる学校が多い。

私立高校にも加点項目があるので、学校ごとに説明会などで確認する必要がある。加点のなかで英検・漢検・数検などの取得証明書を求める学校が多い。説明会参加が絶対という学校もある。

オープン入試が多くなっているが、テストの成績だけで合否が決まる。

推薦の生徒は一般・オープン入試の受験はできない。公立高校も受験できない。(桐蔭学園の推薦などは除く)。

推薦などの生徒もクラス分けテストで高得点をとると特進コースや奨学生の対象になる場合があるので、説明会で話をよく聞くこと。

私立併願する場合に合格したあと、公立の発表まで入学手続きを待ってくれるかどうか確認をする必要がある。(合格発表時に延納願を出す場合が多い)

私立の奨学制度は学校によって違います。具体的には説明会や担任の先生に確認してください。

私立の受験料は20000円が基準である。たくさん受検すれば受験料がかかる学校が多い。

高校が求める生徒像とは？

自ら進んで学習や行事、スポーツなどの部活動に取り組む意欲を持っている生徒
学校の教育方針を理解した上で生活し、自分の将来について積極的に考える生徒
委員会・係活動や清掃・ボランティア活動など自分の役割に責任を持つ生徒
忘れ物や提出物未提出がなく、集団での生活・行動に迷惑をかけない生徒
時間を守り、健康管理をきちんとして、欠席・遅刻・早退が少ない生徒
学校のきまりを守り、服装・髪型などの身だしなみがきちんとしている生徒

簡単に言えば、それぞれの学校にとって「ふさわしい生徒」がほしいのです。基準は「あなた」ではなく、「学校」です。だから、面接重視なのです。だから、人間性を知るために「作文」や「自己表現活動」なのです。あとは、勉強ができる人、スポーツができる人。簡単に言えば高校に貢献できる人がほしいのです。

3 入試までにどのような準備をすればいいのか

まずは学力をつけること。自分でも完璧だと思えるだけの勉強をしましょう。

自分の志望校と自分の学力が合っているか。成績によっては第一希望校以外も考えなければなりません。公立・私立を問わず行ってもいい学校を受験するように。

高校見学を必ずして受験校の選択をすること。校風・部活・教育課程・通学時間・学費・将来性をよく考えましょう。成績だけで学校選択したり、人のうわさや評判で受験しないように。

担任の先生との面談で受験校をしっかりと決めていきましょう。己を知ること大切です。いつまでもあこがれだけを抱かずに現実を見つめることも必要です。家族の理解も大切です。11月の三者面談で最終決定ができるように。

受験校が決まったら、公立前期や私立推薦は面接や作文、自己表現活動の準備をしましょう。

そのためには自己PR書をどうまとめるかがポイントです。私立校の場合は受験校の教育方針を必ず理解しましょう。(具体的な指導は学校でも行います) 普段の授業やテストも最後まで全力で取り組みましょう。クラス分けテストや入学してからの準備のためにも。

・自分の特徴・長所をどれだけ具体的にまとめられるか。中学校での生活や資格・部活などを答えるのではありません。人と違う自分の良いところをできるだけたくさんまとめましょう。

・自分の将来や高校生活についても、自分が思い描く、人とは違うものを具体的に話せるようにしましょう。そして、志望理由をはっきり言えるように。

公立後期や私立専願・併願を受験する人は学力検査が実施されます。普段は最後まで学校の授業を大切にしましょう。冬休みなどは3年間の復習・確認の問題をやったり、模擬テストにもチャレンジしましょう。過去問でその学校の問題傾向を分析することも大切です。

出願に必要な書類をそろえましょう。手続きで失敗がないように担任の指示に従い、自分でも最新の注意を払いましょう。特に、受検料は前もって振り込む学校が多いです。保護者の方も細心の注意をしてください。(私立は学校ごとにすべて違うので)

最後に、心身ともに健康な体作りが必要です。1日の生活スタイルを朝型に変え、計画的な1日の過ごし方を考えましょう。無理、無駄のない、心に余裕のある日々を送りましょう。受験勉強のために学校を休んで勉強したりするようでは受験には合格できません。

その他、出願以降の手続きや心構えについては進路通信を通して連絡します。

< 保護者の方へ ~ 入試までをどのようにお子様のことを考え、見守っていくか ~ >

受験が近づくとつれて緊張感だけでなく、不安感から体のバランスが崩れてしまい、精神的に追い込まれイライラすることが多く見られるようになります。そんなときに頼りになるのは身近にいる親です。いかにお子様をリラックスした環境のなかで生活させるかが大切です。次のことを今から心がけてください。(甘やかしたり、いっしょにハラハラ、ドキドキして顔色をうかがったりせず正面からぶつかってください)

お子様のことを冷静に見つめ(適性や能力)、何を考えているのかを知る。

世間体にこだわらず、親の期待が過剰にならないように。

過小評価して、伸びよう・やろうという芽を摘まないように。

いつでも話ができる雰囲気・環境づくりを心がける。

お子様に焦りや不安を与えるのではなく、良き相談相手になる。

お子様の体力、通学(勤)時間、家庭の事情などから無理のない進路を考える。

うわさや不確実な情報に惑わされずに正しい情報収集を心がける。

進路先に何度も足を運び、進路先のことを直接知る。(説明会、文化祭など)

< 親子で話し合うポイント >

担任の先生とお話をふまえながら、次のことを必ず考えてお子様の進路を決定してください。

最終的な進路はお子様の希望するものか。 自分の意志がはっきりしているか

進路先はお子様の適正や能力に合っているものか。 幅広い選択肢が必要

進路先は目的にあった進路選択か。 理想と現実のギャップはどうか

12月の成績が「前期の成績よりも上がった場合」「現状維持の場合」「前期の成績よりも下がった場合」の3段階に分けた進路選択をしてください。

4 受験の主なパターンについて

パターン1 公立を第1希望(前期後期)、併願で私立を第2希望

公立の前期後期は同じ場合、違う場合が考えられます。学科・コース、科が変わることもあります。公立前期が合格した場合はそこで入学手続き完了です。後期と併願校は受験できません。公立前期が不合格の場合は公立後期と私立併願を出願します。私立併願の発表が先なので手続きを忘れずに。併願校に入学したいときは公立後期を受験前に辞退します。公立後期に不合格したときは速やかに併願校への入学手続きを。

パターン2 私立推薦(専願)を第1希望

推薦はその学校を第1希望にして、学校長の推薦を必要とします。(推薦書が必要)そのため、校長先生との事前面接をします。推薦の扱いの場合でも当日の面接態度に注意して臨んでください。合格後は速やかに入学手続きしてください。他校は受験できません。

パターン3 公立前期を第1希望として、私立推薦 を第2希望

公立前期が合格した場合はそこで入学手続き完了です。公立前期が不合格の場合は私立推薦 の手続きを速やかにしてください。公立後期や他の私立の受験はできません。

パターン4 公立のみ(前期後期)

公立の前期後期は同じ場合、違う場合が考えられます。学科・コース、科が変わることもあります。公立前期が合格した場合はそこで入学手続き完了です。後期は受験できません。公立後期が不合格の場合は二次募集または後期の定時制、通信制を受験することになります。絶対性がなく、あまりお勧めできません。

パターン5 私立オープンを第1希望にして、公立後期併願を第2希望

私立オープンをいくつも受験することは試験日が重ならない限り自由です。ただし、試験合格以外何の保証もありません。合格した場合は速やかに手続きをし、公立辞退届を提出してください。オープンにすべて不合格の場合で、公立後期に合格した場合は速やかに手続きをしてください。公立後期が不合格の場合は二次募集または後期の定時制、通信制を受験することになります。絶対性がなく、あまりお勧めできません。私立併願をお勧めします。

パターン6 公立または私立オープンを第1希望にして、サポート校や高等専修学校を併願する。

パターン7 就職や専修・各種学校を第1希望にして、定時制高校や通信制高校に通学する。

パターン6、7の場合は動きが早いので、担任の先生と早めに相談してください。いずれにしても志望校が決まっていないなど方向性がまだの場合は何回も担任の先生と相談し、早く受験校・受験のパターンを決め、受験に向けて落ち着いた生活ができるようにしましょう。